

第9回 体の動きを高める運動部会記録

1 参加者

部員： 河野・古川・畠中・岡田・関川・大川・山本・藤原・坪根・鈴木・高橋・藤井
アドバイザー：横山先生・森田先生
担当常任理事： 高草木先生

計15名

2 運動プロモーションビデオについて(藤井 T 作成動画)

- ・1分2秒の動画(夏季合同研紹介用動画に変更)
- ・テロップが入って何の動きを行なっているかが分かりやすくなった。
(例 ボール転がし→体の柔らかさを高める運動、長なわ→巧みな動きを高める運動)
- ・それぞれの動きの工夫例も分かりやすい。(例 用具や人数)
- ・このくらいの動画の長さでも、「どうやって運動するのか?」といったような、児童の問いを引き出すようなものになっているのでは。実態に合わせて動画を使い分けていくのもあり。
- ・終わりが爪痕を残しにきているのでは。

3 夏季合同研の部会資料について(河野部長作成したものを受け、話し合った結果のものも含める)

○問いの分類表の追加(畠中 T 昨年度作成したものをシンプルに、学習課題別に整理)

○学びのロードマップ、教師の働きかけは変更なし。

○学習過程について①

3～6時と、7～10時に違いを分かりやすくした。

→学習過程と重点を記載した。

第1時の前半はやってみる時間、後半は問いをもつ時間

第2時は、第1時でもった問いをもとに、学習課題を見いだす

第3時～6時は、決められた運動要素の中から高めたい動きを選択する。

第7時～10時は、運動要素、取り組む動き、動きの数、時間配分を自分で決めて運動する。

○新たな運動例の開発については、これまでの運動開発の視点は2点に変更。

→工夫の広がりがあるもの。高まりが実感しやすいもの。

新たな運動例の開発の視点は、4つ

→工夫の善し悪しが分かりやすい、高まりの動きが明確、運動の楽しさを味わえる、高まりが実感しやすい。

○評価規準の内容は、学習指導要領解説の内容に則り、より具体的なものに変更。

○学習過程について②

- ・第3～6時の前半は、柔らかさを帯びて。
- ・第3、4時の後半は巧みのみ。第5時の後半は力、第6時の後半は持続。
- ・第7時以降は、自分で選択(運動要素も自分で選択)。
- ・評価の重点については、各自目を通し、気付いた点を部長へ。

○一単位時間の流れについて(岡田 T 作成のもの)

- ・教師の言葉の中にある「何が高まるのか考えながらやっごらん」を再検討→佐々木常任理事より

○資料にある「問い」という言葉について

調研部からの指摘は「疑問や気づき」は焦点化しすぎている。問いの分類にも影響してくる。

例 疑問だけ「？」だった場合、自己調整、チャレンジにつながらない場合もある。

振り返りに「疑問」だけ、「気づき」だけを書いてくる児童もいた。

「問い」→

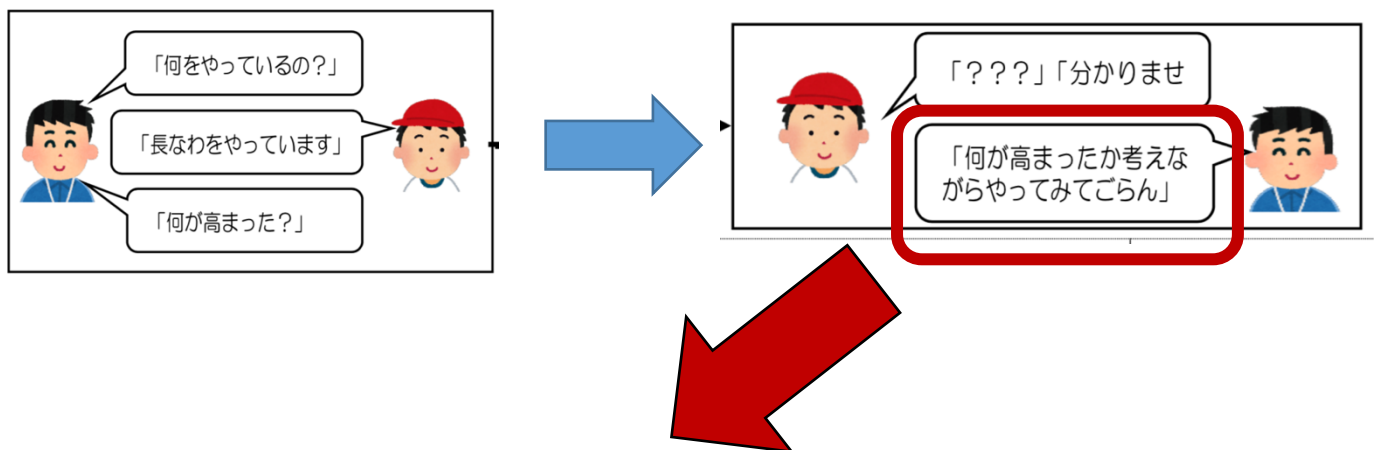
例 ある程度答えや自分の中でやってみたい方向性みたいなのが決まっている中で、それに向かってどうしたらいいのかな。

→「問い」に統一する。

○学級のロードマップと個人のロードマップについて

- ・個人のロードマップ＝個人の学習カード、ワークシート
- ・ロードマップ＝学級全体のもの

○一単位時間の中の教師のかかわりについて（言葉掛けの例）



- ・「何が高まった?」と聞いて「分からない」と答えた児童に対しては、問いを出す、もつことがこの時間の目的だから、「分からないということは、問いがもてそうだね」「それが問いにつながるね」「それも問いだね」というように、「分からない」というように答えた児童のその反応も認め、その反応、考えを肯定した関わりや言葉掛けができるようにする。分からないということも問いだと価値付ける。
- ・この時間で長なわで何が高まるか分からなかった児童は、その授業の振り返りでは、「何が高まるかが分からない、どうすれば高まるのかな?」(問い)、となり、「長なわで何が高まるのか、考えて運動する」(学習課題)となる。
 - 「学習課題を見いだす」ということ

○2学期の実証授業に向けて（畠中 T より）

- ・子供の運動への取り組み方、考え方を視覚化した



「2学期実証授業の手だて」

- ・教師の働き掛けの明確化
- ・第6学年の基となる学習過程の作成
- ・新たな運動例・運動アプリの開発

○夏季合同研に向けてのプレゼン資料について（古川 T 作成）

- ・多少の修正あり（言葉やスライドの順番等）
- ・丁寧に詳しくこれまでの研究内容が反映されている。ただ、制限時間内は厳しいおそれがあるので、いくつかスライドの削除や簡易化を（アドバイザー横山先生より）

○6学年の学習過程の検討

○1学期の実証授業の成果と課題



加筆修正したものを夏季合研で提示

4 次回の部会に向けて（8月5日 or 6日）に向けて

- ・運動アプリ開発の進捗状況次第で資料（紹介程度を夏季合研で見せる。）
- ・個人のロードマップ（学習カード・ワークシート）を部会資料に載せる。来週木曜日ぐらいを期限に。

5 アドバイザー、常任理事の先生より

- ・森田先生→「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について」
研究の内容や形、体育授業そのものを考える上でこれから考えていかなければならないこと。
- ・横山先生→パワボの内容が最高。スペシャル！ただ、夏季合研で発表できる内容量にした方がよい。
（古川 T の熱い思いが溢れている。）
- ・高草木先生→夏季合研に向けて内容のよい話し合いができていた。詰めをきちんと。
HP にあげる工夫をしていってもよい。